

弓道いばらき

平成 23 年 5 月第 33 号

発行所 筑西市中根 361-2
茨城県弓道連盟
理事長 北島 瑞男
電話 (0296-52-3977)
<http://ibakyuren-k2.web.infoseek.co.jp/index.html>

平成二十三年度に向けて

茨城県弓道連盟 会長 柴田 猛

3月11日の東日本大震災では、想像を絶する未曾有の災害が発生しました。茨城県内も報道されたように、相当大きな被害を受けている状況が明らかになってまいりました。会員の皆様の中にも、被害に遭われておいでのこととお見舞い申し上げます。また、全国各地より暖かいお見舞いをいただきましたことを謹んでご報告いたします。

さて本県の平成22年度の諸行事も会員各位のご協力により滞りなく終えることができました。ここに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。今年度の努力目標を以下のように

考えております。会員各位のご協力をお願いいたします。

1 競技会・講習会への積極的参加を
2 射法射技・体配の向上に努める

大会への参加は修練の成果を試すよい機会であります。試合への参加にあたっては各自どのような試合展開になるかを予想し、どのように対応するかをイメージして臨んでいることと思えます。そして試合の結果を反省し次の大会に生かしていくように稽古する。反省点は？心の持ち方は？チェックポイントは確実にやり切れたか？何故やり切れなかったか？等々。

講習会への参加は体配・射技の十分な点の指摘を受けたり、見取り稽古等で不十分な部分を修正し確認し修正する。射技と体配は車の両輪です。しっかりと体配は射品・射格に表れます。隙のない体配に基づいた射は見ている人に感動を与えるものです。

審査で気のついた点を列記します。
①入退場の足先（上座に向く）目線は4メートル上座に目線を上げ礼（揖）をする、目線を4メートルに戻す。
②歩行では大前は角を取り、2番以後は元禄に廻る。
③本座は跪坐

したときに膝頭が本座の線にある。
④開き足は脇正面に向きを変える場合は、右膝は動かない。的正面に向きを変える場合は、左膝は動かない。
⑤肌脱ぎ・襷さばきは籐頭を持って動作にうつる。
⑥弦をかえす等矢は床に水平を保つ心遣いを。
⑦矢番え、組む、甲矢乙矢を確かめ、甲矢を取り、目・顔を右手に戻し矢を番える。
⑧退場の際前に人がいる場合（射礼を含む）は矛先を前の人の左側に置く。
⑨跪坐（正坐）から立ちあがる際は膝を締める（射礼は11回）。十分な稽古をしてください。

3 弓道人の底辺拡大に努める

ここ数年弓道人口の推移を見ると若干の出這入りはあるものの横ばいの傾向にあります。各地で弓道教室を開催していただいておりますが大学、高校、教室卒業生等と呼びかけて一人でも多くの人に仲間になっていただけるようお誘いしていただきたいと願っています。

4 弓道を通して自己実現に努める

教本に、身体を強健にし、礼節・信義・克己・謙讓・大和等々の精神を養い人格の陶冶に裨益し生活内容を豊富にすることにある。と述べられています。「生活即弓道、弓道即生活」は故範士十段中野慶吉先生が常にお話になられていた言葉です。お互いに弓道をとおして自己実現に努めていきたいものです。

いろいろ述べましたが大きな目標に向かって一歩一歩突き進んでください。
皆様方の益々のご発展・ご活躍を祈念いたします。



柴田会長



このたびの震災では、多くの弓友の方々、道場が被災され、現在も稽古等に支障があると存じます。どうぞご自愛ください。

教練士会

教練士会は昨年度の活動を最後に、55年の歴史に幕を下ろしました。長い歴史を明間勲先生にまもっていただきました。

なお、詳細については、茨城県弓道連盟60周年記念誌に掲載される予定です。

1. 茨城県弓道連盟 教練士会

設立 立：昭和30年～平成22年
経過年数：55年

(1) 教練士会の歩み

ア. 教練士会発足

(昭和30年～40年代)

教練士会は、故中野慶吉先生、故矢吹三郎先生の発意により、教士・錬士の相互研鑽の場として発足した。

発足当初の昭和30年～昭和36年の間は、東京・茨城合同の親善試合が開催された。

イ. 昭和50年代～昭和60年度

昭和54年度以降、教士・錬士が互いに切磋琢磨するために、年間

5回程程度の講習会を開催するようになった。

昭和55年、56年には、千葉県と茨城県の懇親を兼ねた一泊二日の合同講習会を開催した。

その折、笠間の中野慶吉先生の道場で弓を引いて懇親会を行う予定であったが、中野先生の都合で弓を引かずに石切山に案内していただいたこともあった。

また、昭和56年以降、五段会と合同で講習会を開催することもあった。

ウ. 昭和61年度～平成5年度

昭和61年度から平成5年度の間は、範士の先生方とともに稽古する場として、範教練士会と称するようになった。

平成5年度には年間5回の講習会が行われ、毎回範士の先生方のご指導を仰いでいたことが総会資料に残されている。

エ. 平成6年度～平成14年度

平成6年度からは、再び教練士会と称するようになった。

平成6年6月には、茨城県指導部派遣講師の柴田猛教士を招いて、石岡須田道場にて五段会との合同講習会を開催した。7月の仙台中央審査を控えての講習会であったことから、受講生は柴田猛先生の素晴らしい詰合の理論と体の働きを吸収しようと熱心に学

び、充実した講習会であった。14年度には、役員改選があり新体制となった。役員一同が会運営に渾身を注いでいくことを決意し、年間計画を作成するようになった。

年間計画において、年間5回の講習会を開催し、10月には外部講師を招いた講習会を開催することとした。

教練士会講習会の開催に際しては、専任の講師が一貫した指導を行うこととした。そのことにより、受講者だけでなく、講師の先生方が指導した効果を実感できる講習会の開催を目標とした。

目標達成に向け、柴田猛範士・関根村夫範士・久保田清範士を中心に講習会を行うべく、諸先生方に教練士会の意を伝え了承を頂いた。

しかしながら、範士の先生方は日本国内だけでなく海外にも赴いて弓道の指導や審査等を担われているため、教練士会の講習会に範士の先生方をお招きできないことが多々あった。また、国体の開催月等には講師依頼に苦勞することもあった。

この反省から、範士の先生方が各地に赴いて指導や審査等の活動を行うことが比較的少ない時期を狙って教練士会の講習会を開催

し、範士の先生を招聘することとした。

オ. 平成15年度～平成21年度

平成15年度以降、武道館、存心館を主会場として、範士・教士の先生方を主任講師に招き、年間4回程程度の講習会を開催し研鑽に努めた。

カ. 教練士会講習会を県連行事に移行

教練士会は、歴代役員の尽力により、昭和30年から平成22年の間、称号者の相互研鑽の場として引き継がれてきた。平成21年度には、教士・錬士の先生方が180名を超え、外部の講師を招いた講習会においては、多くの受講生が参加し、身のある講習を行うことが難しい状況であった。

そのため、更なる茨城県の弓道発展をめざし、教練士会講習会を県連主催行事に移行。教士と錬士を分けて講習会を開催し、切磋琢磨することとした。

平成22年2月20日～21日、教練士会主催として最後となる126回目の講習会を開催し、55年間の教練士会の歴史に幕を下ろした。

平塚治男(昭和61年～平成元年)

〔木村喜久雄、元木 豊〕

平塚治男(平成2年～平成3年)

〔木村喜久雄、阿部正紀〕

平塚治男(平成4年～平成5年)

〔木村喜久雄、澤田恒弥〕

大村嘉雄(平成6年～平成8年)

〔天 牙子、木村喜久雄〕

〔天 牙子(平成9年～平成13年)

〔高橋平吉、赤津 徳〕

明間勲(平成14年～平成22年)

〔安藤延典、堀江 栄〕

専門部だより

指導部

部長 助川 末廣

この度、東日本大震災により被災された皆様方に心からお見舞い申し上げます。道場も被害にあわれ、思うように練習もできず自由な日々を送られている事と存じます。一日も早く普段の生活に戻れますようお願いいたしております。

今年の講習会について、なお一層充実した内容にしようと、指導部一同努力する所存であります。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(2) 歴代会長 (副会長)

(昭和58年以降の役員)

小山 勇(昭和58年～昭和60年)

(関根村夫)

三・四段講習会では、基本の八節はもろんの事、入退場・櫛掛け・肌脱ぎ動作を無意識に具現できる事を重点にしたいと思っております。体配、肌脱ぎ（櫛掛け）動作が無意識にできないと射に大きな影響がでると感じております。集中力の向上を図るプロセスとして体配の修練体得は重要だと思います。

五段講習会では、射品・射格の向上に重点を置いた内容にしたいと思っております。近年、審査も厳しくなっていると聞いております。単に射技を高めて的中率を上げることだけを求めた、中てる（あてる）射ではなく、弓道の最高目標となる「真・善・美」を掲げた、中る（あたる）射を目指していただければと思います。

錬士講習会・教士講習会は、人格・技能、そして指導者に必要な心構え等に重点をおき、射礼（持的射礼・二つの射礼）においても、細かい部分を会得できる講習会にしたいと思っております。また、矢こぼれの処理、弦切れの処理、そして介添えとしての対処方法等、イレギュラーな対応を落ち着いて処置できるように実施したいと考えております。今年より、それぞれの講習会の最後に質疑応答の時間を設けました。疑問やご不明な点がご

ございましたらそのときにご質問をお願いいたします。

それぞれ人の在り方・道筋を学び、自分自身を高める。講習会を通じて在るべき姿を正しく理解し、正誤をしつかりと識別して、正しい在り方、即ち正しい道を正しい方法で学んでください。基礎基本を正しく身につけ忠実に修練することが大切だと思っております。結果を冷静に受け止めて、自身身を反省し向上する糧にする。そして、見取り稽古、工夫稽古、矢数稽古を繰り返し、自分の人間性を鍛え、向上させる気持ちをお忘れず毎日の積み重ねに繋げていただければ本望です。

会員皆様方のますますのご精進とご活躍をお祈り申し上げます。

審査部

部長 山村 晋

この度の東日本大震災等により被災されました、皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

平成22年度審査部の行事も予定通り終了することが出来ました。紙面をおかりして、厚く御礼申し上げます。

21年度の関東錬士臨時中央審査

（茨城主管）に引き続き、23年度臨時中央審査（主管茨城県）が9月25日（錬士）・9月26日（六段・七段）と2日間にわたり、県武道館で開催されました。

早い時期より、準備等打合せ会議、進行係の研修と会員皆様の積極的な運営と、ご協力を頂いたおかげで、無事終了することが出来ました。あらためて各位に感謝申し上げます。

県内審査も一般3回・中高審査4回・連合審査1回 計8回実施いたしました。受審者数も年々増え昨年より約200名を超える2,300名と多くの方に審査を受けて頂きました。

特に中高生受審者中、一年生の受審者が多く来年からが楽しみな生徒たちです。

これは、顧問の先生の熱心なご指導のおかげと思われれます。

審査申込者数も年々多くなり審査部もうれしい忙しさですが、審査部一同一人でも多くの方が合格できますように、裏方として頑張っているところでです。

また、審査当日の受審者の審査を受ける心得を参考に述べます。

- 1 審査当日は早めに余裕をもって、会場に行き受付を完了、受験番号を確かめた上必ず自分の立ち順の予定時刻を推定す

る。

2 開会式には必ず出ること。注意事項の中には、合否判定にかかわるような、大事な話もあるのではないかと、人から聞くのではなく自分の耳で聞くことも大事である。

3 特別演武は必ず観るようにする、大事なことです。その日の審査の通りに、演武をします。演武者の入場から退場（本座・射位の位置）まで参考になります。

22年度は、多くの方が審査を受け、そして昇級、昇段と実りある一年でした。審査部も、一人でも多くの合格者の笑顔がみられるように、審査を受けやすい環境作りに努力してまいります。

審査部からのお願い

- 1 審査申込期限日は、審査実施日前日（県外75日・県内20日）
- 2 「弓道 級・段位審査申込書」は必ず添付すること

競技部

部長 稲葉 健次郎

今回の東日本大震災において、県弓連の会員各位におかれましても市町村、ご家庭あるいは弓道場等に何らかの被害を受けたり、断水・停電等で大変なご苦勞をされたことを心よりお見舞い申し上げます。

県内競技大会の全てを茨城県武道館弓道場に依存して開催しております競技部にとっても大会実施

平成22年度 審査状況一覧

段級位	申込者数	欠席数	受審者数	合格者数	合格率%
無指定	794	22	772	710	92
				62	8
二級	325	8	317	317	100
一級	182	3	179	179	100
初段	409	7	402	392	97.5
二級	216	1	215	202	94
三段	172	5	167	51	30.5
四段	74	2	72	21	29.2
五段	128	5	123	6	4.9
合計	2,300	53	2,247	1,940	86.3

計画の見直しを余儀なくされてお
ります。弓道場の被害そのものは
微少ではありますが一部損傷の修
復が完了するまでは、会議室を除
き全館使用禁止となっております
す。

選手権大会称号者の部、有段者
の部、国体選手権茨城県大会及
び遠の大会などは関東地域代表選
手選考会、国民体育大会関東ブ
ロック大会、全日本弓道遠の選手
権大会に直結している大会であ
り、必ず実施して茨城県の代表者
を選考しなければなりません。一
日も早く武道館が使用できるよう
期待しているところです。

なお、今年度の国体関東ブロッ
ク大会は茨城県が担当となってお
り、7月末から8月末まではリ
ハサル、公開練習、28日の本大
会となっております約100名の競技役員
をお願いすることになります。ご
協力をお願いいたします。

平成22年度に計画をした県連主
催の競技大会は、2,200名の
参加を得て実施されました。各大
会の開催にあたっては、各地区か
ら選出された会員の方々の積極的
な活躍により、全ての大会が円
滑に終了することが出来ました。
紙面をお借りして改めて各位に御
礼申し上げます。県民総体(兼)国
体選手権大会においては参加者が

60名以上増加しましたが、これは
参加者全員から徴収していた国体
参加者傷害補償制度の負担金が全
廃されたことも影響しているかと
思います。

新年射会 は前年の六段以上の昇
段者(4名・錬士以上への昇格者
(16名) および喜寿以上の18名の
祝年者のうちの有志による祝賀演
武が行われました。

今年度も各大会において、地区
委員長さんを中心に競技役員をお
願ひいたしますので、よろしくご
協力をお願いするとともに、多く
の弓友の競技大会への参加を心か
ら歓迎いたします。

強化部

平成23年度に向けて

選手強化部部長 竹之内 正宏

昨年は、柴田先生をはじめ、県
連および各支部の諸先生方のご指
導のおかげで、男女ともに関東ブ
ロックを通過し、千葉県匝瑺市で
行われた本国体では、成年男子遠
的で第6位に入賞することが出来
ました。

この場をお借りして御礼申し上げ
ます。今後ともご指導よろしくお
願ひします。

さて、昨年の試合を振り返る

と、女子については、関東ブロッ
クを通過できるかどうか、ぎりぎ
りの力しかありませんでしたが、
ここの一番での集中力とチームワー
クで関東ブロックを乗り越えまし
た。しかし、本国体では、大会の
雰囲気にも飲まれて、力を出せない
ままに試合が終わってしまいました。

男子については、非常に若い3
人でのチャレンジが良い方向に傾
き、関東ブロックで遠的優勝し、
本国体での遠的入賞につながりま
した。実力で勝ち取った入賞なの
か、追い風が吹いていたのか、見
方が分かれる入賞ではありません
が、入賞できたことに関しては素
直に喜び、あと一本でもっと上を
目指せたことについては真摯に反
省したいと思えます。

平成23年は昨年同様に、強化部
として以下の3つの目標に取り組
みたいと思えます。

- 1 選手個々の実力に裏付けられ
た本場に強いチーム作り
- 2 継続的な強さを維持、発揮で
きるような組織作り
- 3 弓を楽しむ環境作り

第一の目標を達成するためには、
選手を目指す方々の個々のレ
ベルアップが必要です。国体選手
として、射技だけではなく、体配
も射形も一段上を目指した(中

るのではなく中たる射を目指し
た)、練習を普段から実施して頂
きたいと思えます。

第二の目標を達成するために
は、選手層の厚さが必要です。正
選手3人と同じ程度の力を持った
補欠選手が常時3人程度いる状態
となるように強化練習を行い、競
い合う中で選手各自が持っている
パフォーマンスを引き出せるよう
にしていきたいと思えます。

第三の目標を達成するために
は、ただ楽しいだけでなく、弓が上
手くなったと実感できる練習が必
要です。強化練習参加者各位がレ
ベルアップを実感できるように、
弓を楽しいと感じることが出来る
ような雰囲気を目指した練習を計
画したいと思えます。

最後に、平成23年は関東ブロッ
ク大会が茨城県で開催されます。
地元の利を生かして、男女とも
に関東ブロックを通過し、本国体
での入賞を目指しますので、ご指
導、ご声援の程、よろしくお願ひ
します。

施設部

部長 園部 俊雄

平成22年度を振り返りますと、
各種大会等では各当番地区の皆様

のご協力をいただいて安土の的付
け等の準備作業を始め大会終了後
の後片付け等大過なく運営されま
して感謝申し上げます。さら
に皆様が心地よく大会に参加さ
れまして実力が十分発揮されて
ように、皆様の意見を参考にして
施設係として取り組んでいき
たいと思っております。平成23年度の大
きな大会では5月下旬の全国高等学
校弓道大会が、8月下旬の国体関
東ブロック予選大会が予定されて
いますが、今回の東日本大震災に
より残念ながら茨城県武道館が4
月から使用不可となり、5月下旬
の全国高等学校弓道大会は東京へ
と会場変更となりました。施設部
としては8月下旬の国体関東
ブロック予選大会が大過なく運営
出来ますように準備を進めたいと
思いますのでご協力よろしくお願
ひ致します。最後にお願ひです
が、各種大会に参加されました皆
様の一部ですが、忘れ物が多々見
受けられますので、特に小物(矢、
かけ、弦巻き等)に支部名・名前
を記入願えればと思っております。

総務企画委員会運営に 関して

茨城県弓道連盟副会長

木村 喜久雄

茨城県弓道連盟規約第七条に基づき、平成18年度に茨城県弓道連盟総務企画委員会が発足しました。当委員会の構成は、教士七段以上の称号受有者および他の者の中から会長が委嘱し、かつ、代議員会で承認された者と定められております。

第一期委員会 張替謙一(委員長)・天冨子・赤津徳・明間勲・市毛道子・白石直之・山村晋、第二期委員会 天冨子(委員長)・赤津徳・張替謙一・明間勲・市毛道子・白石直之・宮崎康美・山村晋・木村喜久雄、第三期委員会 木村喜久雄(委員長)・張替謙一・明間勲・市毛道子・白石直之・宮崎康美・山村晋がその任に当たつてまいりました。

任期は二年とし、会議召集の時期は不定期であります。各期とも弓道指導方針に関する策定、審査会ならびに各種競技会の合理的運営の検討、国体選手強化計画の策定、連盟活性化の施策などに関する、会長または理事長から会務遂行上発生する重要案件について諮問

をいただき、これらを審議し、答申してまいりました。

一方、委員からの建設的かつ大局的な審議事案等もあって、これも併せて審議をし、会長に提言し、連盟運営に反映していただいた事も幾つかあり、委員会として意義ある仕事をしていると自負しております。

委員会は、前述のように会長の諮問を待つだけでなく、連盟運営の活性化のために常に問題意識を持ち続け、執行部に対して問題点とその改正について提言しておりますが、委員の皆さんにおいても連盟運営上の問題点(個人的な誹謗や中傷は除く)があるときは、委員会に対して文書にてご提案くださるようお願いしております。

明正会の活動

堀江 栄

昭和55年「明治会」として発足して31年たちました。

その後、明治生まれと大正生まれの会員になってきたので明治の「明」と大正の「正」とをとり「明正会」と名乗りました。時がたち昭和生まれの加入者も増えてきたので名称を変えようとの話がでてきたが、「年はとつても、明るく正

しい弓道」を求める私達のグループであると考えればいささかうとの結論に纏まり、現在のとおり「明正会」と名乗っている次第です。

活動内容は、4月―水戸「武道館」、6月―大子町、8月―土浦市、10月―東海村、12月―石岡市、翌年2月―笠間市友部。大子での射会は宿泊での研修会です。湯に浸つての弓道談義も楽しく乙なものです。

それぞれ射会が終了すると射技研修にはいります。現在、教士の先生が5人おりまして、指導を受ける者、教える側、それぞれ熱の入った研修になるのが常です。年を忘れての勉強会です。弓道の楽しさは増すばかりです。

射技勝者は次回で「射法訓」の斉唱リード、競射勝者は次回で矢渡しをすることになっていきます。茨城県弓道連盟の柴田猛範士、副会長の久保田清範士をはじめ多くの先生方から指導を頂いたことを無にしないように、悩み・励んでいる、本当にびっくりするほど真面目な集団です。

私達の勉強会のご褒美の一つに「ねんりんピック」出場があります。ここ数年の例をあげてみると、選手団8人の中に毎年何人かは参加しています。これは、普段

の鍛錬の成果であると自負自賛しています。

- 平成19年 (茨城県大会) 綱川久子・会沢 久・根本利江
- 堀江 栄
- 平成20年 (鹿児島県大会) 岩間捷雄
- 平成21年 (北海道大会) 会沢 久・根本利江
- 平成22年 (石川県大会) 根本傳哉・郡司武満・岩間捷雄
- 平成23年 (熊本県大会) 齊藤ミユキ・大田喜恵子
- 関島 勝

平成22年度 各例会での成績

回(会場)	射詰	競射	矢渡し
第171回(水戸)	郡司 武満	岩間 捷雄	田村 彰
第172回(大子)	該当なし	浜野 昇	岩間 捷雄
第173回(土浦)	岩間 捷雄	岩間 捷雄	浜野 昇
第174回(東海)	該当なし	堀江 栄	関島 勝
第175回(石岡)	大田喜恵子	桧山 正富	堀江 栄
第176回(友部)	根本 傳哉	関島 勝	桧山 正富

※回を重ね、200回に迫ってきました。

五段会

会長 大貫 富士男

平成23年度も始まりましたが、東日本大震災による施設の被害が多数発生し、県連行事もままなりません。また、会員の皆様の被害に対しても心よりお見舞い申し上げます。

さて、五段会は平成22年度の会員数は68名で、年1回の大会と3回の講習会を主体に、会員の持た的射礼の向上と親睦を目的に運営しています。

発足は昭和47年頃、中野慶吉先生の道場に国体参加選手が報告と



お礼に伺った時に、結果が良くなかったためか、中野先生から「やる気のある者を集めて俺の所に来なさい。月1回で良い。ただしやる気のある者だけ」と言われ、そこからスタートしたとの先人の言葉です。当時の申し合わせとして、参加者は現有段位はすべて白紙とし同格、会長はおらず、中野先生を師範とし、昼食は手弁当を踏襲したとのことでした。中野杯は、当時、古谷野保夫先生が中野先生に依頼し、先生から寄贈され現在に至っています。

弓道の良さは、満を持して的对峙することです。平均5〜6秒の時間ですが、長・短をいうのではなく、的中率の高・低をいうものでもないでしょう。清直にして清らかな心が、我欲に走らんとする自らと闘い、没我の精神にいたるところにあると思います。そのため基礎として、正しい持ち的射礼の修練を続けていきたいと思っています。

会議報告

県外

関東地域弓道連盟連合会会議
(4/6、10/7 柴田)
全日本弓道連盟定時評議員会

(5/28 柴田、北島)
全日本弓道連盟通常評議員会
(H23/3/6 柴田)
全国地連会長会議
(11/2 柴田)

県内

専門部長会議 (H23/1/30)
理事会 (H23/2/27)
代議員会 (H23/3/13)
指導部長

研修事業報告

県外

〔関東〕(北) 地区指導者講習会
(高崎 5/15〜16)
宮崎康美、小松正幸、
森 昭夫、小堀富男、
萩野谷綾子
〔関東〕女子講習会
(山形市 6/26〜27)
柴原一利子、中井川美枝子、
村上美保
〔関東〕地連幹部講習会
(宇都宮 6/19〜20)
白石直之、山村 晋、
助川末廣
〔男子・女子〕中央研修会
(中央 10/9〜11)
張替謙一
関東教職員弓道指導者講習会
(中央 H23/1/22〜23)
25名参加

指導力向上指導者講習会
(中央 H23/2/5〜6)
柴原一利子
講師研修会
(中央 H23/3/4〜6)
久保田清

県内

講師・審査員講習会
(武道館 4/11 44名)
三・四段講習会
(武道館 5/1 54名)
(武道館 8/28 42名)
五段講習会
(武道館 5/29 53名)
(武道館 9/18 42名)
錬士講習会
(土浦市 8/7 38名)
(武道館 11/13 47名)
教士講習会
(武道館 7/17 16名)
(取手市 10/9 24名)
支部指導者講習会
(土浦市 6/19 38名)
学校指導者講習会
(武道館 9/12 16名)
中体連審判講習会
(武道館 10/9 61名)
高体連審判講習会
(武道館 7/18 110名)
競技団体補助事業講習会
(7/17教士講習会を兼ねた)
述べ参加者数 585名

県外大会 一般

第61回全日本弓道大会
(京都 5/2〜3)
・成年男子の部
総合2位(国体出場権獲得)
・成年女子の部
総合4位(国体出場権獲得)
第51回関東地域弓道選抜選手権大会
(中央 9/12)
・有段者の部
(菊地俊和、石田昌嗣、笹沼健一、
門井寿通、飯田純子)
・称号者の部
(宮崎康美、張替謙一、林田幸子、
中嶋鉄郎、中井川美枝子)
第61回全日本男子弓道選手権大会
(天皇杯)
(中央 9/17〜19)
張替謙一
第43回全日本女子弓道選手権大会
(皇后杯)
(中央 9/19〜21)
柴原一利子
第65回国民体育大会
(千葉県 10/1〜4)
・成年男子の部
藤枝秀平、尾吹将大、山口 純
出場
遠的競技 第6位入賞
・成年女子の部
飯田純子、黒澤智子、小島幸子
出場

第57回全日本勤労者弓道選手権大会
(山口県 6/12〜13)
・日立製作所茨城
(木元雄太、笹沼健一、藤崎岳人
予選通過)
・三菱化学鹿島
(寺本貞光、山野貴広、川瀬政人)
第48回関東教職員弓道大会
(茨城県 7/4)
・男子団体の部 優勝
(中嶋鉄郎、後藤裕一、圓城寺賢二)
・男子個人の部
3位：後藤裕一
5位：宮本和明
第61回全日本選手権関東地域代表
選手選考会
(甲府市 7/18)
・天皇杯
(張替謙一、明間勲、塚田哲也、
宮崎康美)
・皇后杯
(柴原一利子、林田幸子、
中井川美枝子、萩野谷綾子)
第41回全日本教職員弓道選手権大会
(香川県 8/7〜8)
・選手派遣 9名
第65回国民体育大会関東ブロック
大会
・男子の部
第61回全日本弓道遠的選手権大会
(平城京跡特設 10/23〜24)

・(小沼勝則、菊地俊和)
・女子の部

決勝進出 黒澤智子、(石井和子)
第23回ねりんピック石川2010
弓道大会

(石川県加賀市 10/9~11)

船越 忠、郡司武満、佐藤至學、
武田美代子、岩間捷雄、
根本傳哉、沖田紀子、坂本 允

第11回全日本遠的弓道選手権大会
(中央 H23/1/9)

・新成人女子の部
3位 久保田蒼

・新成人男子の部
2位 山口 純

4位 大森陽平

県外大会 高体連

第28回全国高等学校弓道選抜大会
(大阪府 3/19~21)

・女子団体の部
2位 清真学園

第54回関東高等学校弓道大会
(千葉県 6/4~6)

・女子個人の部
優勝 木村澄香(土浦二)

8位 廣瀬真衣(清真)

第55回全国高校弓道大会
(沖縄県 7/28~31)

大会弓道競技
(群馬県 8/21~22)

第29回関東高等学校弓道個人選手
権選抜大会
(東京都 9/11~12)

・男子の部
3位 永瀬拓哉(茨城東)

・女子の部
5位 櫻村和可菜(那珂)

8位 駒崎三祐貴(清真)

第29回全国高等学校弓道選抜大会
(鹿児島県 H23/3/19~21)

・男子の部 佐和高校
・女子の部 石岡高校

県外大会 中体連

全日本少年武道(弓道)錬成大会
(日本武道館 7/19)

第21回関東中学生弓道大会
(茨城県武道館 8/8)

・男子個人の部
8位 小島康太(城ノ内中)

・女子個人の部
3位 池田桜子(清真学園中)

第6回全国中学生弓道大会
(中央 8/21~22)

茨城県弓道連盟主催(主管)県内大会

春季大会
2010・4・25

▼団体

優勝 水戸桜川B
準優勝 土浦亀城A

3位 高萩A
▼男子の部
優勝 石田昌嗣

準優勝 門井寿通
3位 藤枝秀平

▼女子の部
優勝 金子久美子

準優勝 橋本智子
3位 水野希美

▼称号者
優勝 檜森宏次

準優勝 萩原裕一
3位 小島幸子

▼優秀賞(団体)
藤代A(第1射場)

日製(日立)A(第2射場)
▼優秀賞(個人)
門井寿通(第1射場)

木村陽子(第2射場)
▼選手権有段
2010・5・9

▼三段以下
優勝 山口 純

準優勝 藤枝秀平
3位 小沼 豊

▼四・五段
優勝 菊地俊和

準優勝 石田昌嗣
3位 笹沼健一

▼最高得点
初段以下 坂本隆盛

二段の部 鈴木佳世

参段の部 山口 純

四段の部 奥山郁夫 田中宏和
五段の部 辻 尚宏
▼選手権称号
2010・5・23

▼男子の部
優勝 張替謙一

準優勝 宮崎康美
3位 塚田哲也

▼女子の部
優勝 林田幸子

準優勝 中井川美枝子
3位 小島幸子

▼最高得点
男子 張替謙一

女子 柴原一利子
▼県民総体
2010・6・20

▼男三段以下
優勝 荒木広大

準優勝 山口 純
3位 吉田良真

▼男四段以上
優勝 飯塚尚人

準優勝 大友 実
3位 照沼勇一

▼女三段以下
優勝 村田彩子

準優勝 水野希美
3位 太田和子

▼女四段以上
優勝 武田美代子

準優勝 廣瀬仁美
3位 鈴木亜紀

▼称号受有者
優勝 吉田 智

準優勝 川瀬政人
3位 小沼勝則

▼遠的大会
2010・7・25

▼男四段以下
優勝 田中宏和

準優勝 尾吹将大
3位 山口 純

▼男五段以上
優勝 小沼勝則

準優勝 菊地俊和
3位 石井 誠

▼女四段以下
優勝 飯田純子

準優勝 福田直子
3位 稲見仁美

▼女五段以上
優勝 黒澤智子

準優勝 石井和子
3位 小島幸子

▼夏季錬成
2010・8・22

▼五人立団体戦
優勝 土浦亀城B

準優勝 神栖市A
3位 土浦市B、藤代

▼中野杯
2010・9・5

▼男子の部
優勝 稲見真人

準優勝 須賀桂太

3位 山口純

女子の部
優勝 坂本宣子

準優勝 小泉紀子

3位 中村芳子

称号受有者

優勝 廣原洋介

準優勝 小沼勝則

3位 後藤裕一

段位別

2010・10・17

二段以下

優勝 白石唯

準優勝 石川成美

3位 江口昭裕

三段の部

優勝 杉瀬剛

準優勝 大森陽平

3位 斎藤達雄

四段の部

優勝 丸三郎

準優勝 稲見真人

3位 藤枝秀平

五段の部

優勝 船越忠

準優勝 大貫敏宏

3位 唐澤章

称号受有者

優勝 小泉公子

準優勝 清水正己

3位 石井誠

優秀賞

二段以下 吉川恵太

三段の部 大森陽平

四段の部 尾吹将大

五段の部 辻尚宏

フェスティバル
2010・11・14

男子の部

優勝 村上一樹

準優勝 村松真

3位 松本瞬平

女子の部

優勝 秋野有香

準優勝 小野瀬梢

3位 山口真由

支部対抗

2010・11・28

三人立団体戦

優勝 下館A

準優勝 水戸桜川B

3位 茨城町、土浦亀城B

新年射会

2011・1・30

三段以下の部

射詰優勝 鈴木寿幸

男子

優勝 鈴木寿幸

準優勝 本田敦

3位 舛井知典

女子

優勝 村松喜久代

準優勝 小林美環

3位 村松彩瑛

四・五段の部

射詰優勝 山口純

男子

優勝 宇佐美章

準優勝 菊地俊和

3位 櫻井信一

女子

優勝 金子久美子

準優勝 野田君江

3位 市毛文絵

称号受有者の部

射詰優勝 後藤裕一

男子

優勝 福嶋勝之

準優勝 飯泉清

3位 廣原洋介

女子

優勝 柴原一利子

準優勝 黒澤智子

3位 高羽京子

春季大会

2010・5・15

男子の部

優勝 唐澤章

準優勝 辻尚宏

3位 高橋義之

女子の部

優勝 佐藤敬子

準優勝 前野和美

3位 大金喜代子

総合の部

優勝 唐澤章

秋季大会

2010・11・20
男子の部

優勝 飯塚尚人

準優勝 後藤裕一

3位 唐澤章

女子の部

優勝 佐藤敬子

準優勝 大金喜代子

3位 大川都志子

総合の部

優勝 飯塚尚人

春季大会兼 関東大会県予選
2010・5・7 (男子)

2010・5・8 (女子)

男子団体

優勝 藤代A

準優勝 土浦三

3位 銚田一A

女子団体

優勝 清真学園

準優勝 筑波

3位 土浦二C

男子個人

優勝 安田智哉

準優勝 伊藤数馬

3位 久保望

女子個人

優勝 駒崎三祐貴

準優勝 深田ちひろ

3位 永田里菜

高校総体予選 県民総体予選
全国総体予選 国体茨城大会
2010・6・11~13

男子団体

優勝 藤代

準優勝 下妻一

3位 石岡商

女子団体

優勝 石岡商

準優勝 藤代

3位 清真学園

男子個人

優勝 羽鳥啓太

準優勝 幸田大輝

3位 堤陸

女子個人

優勝 安達弓恵

準優勝 廣瀬真衣

3位 相原利恵

国体選手選考会
2010・6・19 (二次)

2010・6・25 (二次)

男子の部

選手候補 安田智哉 幸田大輝

監督 牧田幸博

女子の部

選手候補 青塚まゆみ

駒崎三祐貴

廣瀬真衣

県個人選手権 兼
関東個人選手権 県予選会
2010・8・25 (男子)

2010・8・27 (女子)

男子総合

優勝 青柳潤

準優勝 幸田大輝

3位 寺門恭兵

▼女子総合
 優勝 駒崎三祐貴
 準優勝 安達弓恵
 3 位 小林由紀恵

▼男子1年
 優勝 徳永和浩
 準優勝 中村太一
 3 位 戸嶋康晴

▼女子1年
 優勝 木村紗悠美
 準優勝 小林史果
 3 位 菅谷円美

▼男子団体
 優勝 霞ヶ浦
 準優勝 竹園
 3 位 八千代

▼女子団体
 優勝 清真学園
 準優勝 日立一
 3 位 茨城東

▼男子個人
 優勝 宮原貴裕
 準優勝 松井聖吾
 3 位 徳永和浩

▼女子個人
 優勝 大竹祐香
 準優勝 関水千夏
 3 位 飯岡七海

2010・11・12 (男子)
 2010・11・10 (女子)
新人大会兼全国選抜予選

▼男子団体
 優勝 佐和
 準優勝 牛久栄進
 3 位 鹿島 竹園

▼女子団体
 優勝 石岡商
 準優勝 笠間
 3 位 水海一 筑波

▼男子個人
 優勝 直江純一
 準優勝 松浦佑樹
 3 位 横須賀敦

▼女子個人
 優勝 榎村麻智恵
 準優勝 塩谷仁実
 3 位 飛田理絵

2010・7・29
県総合体育大会

▼男子団体
 優勝 竹来中
 準優勝 土浦一中
 3 位 江戸川学園取手中

▼女子団体
 優勝 朝日中
 準優勝 竹来中
 3 位 愛宕中

▼男子個人
 優勝 吉田(土浦二)
 準優勝 根本(千波)
 3 位 田中(竹来)

▼女子個人
 優勝 佐藤(竹来)
 準優勝 久保田(愛宕)

3 位 平松(朝日)

中野優勝旗大会
 2010・8・1

▼男子団体
 優勝 清真学園中A
 準優勝 竹来中B
 3 位 城ノ内中B 東海南中A

▼女子団体
 優勝 朝日中A
 準優勝 清真学園中A
 3 位 千波中A 阿見中C

▼男子個人
 優勝 和田(清真)
 準優勝 飯村(土浦二)
 3 位 小林(千波)

▼女子個人
 優勝 拔井(阿見)
 準優勝 池田(清真)
 3 位 山田(内原)

2010・10・29
県新人大会

▼男子団体
 優勝 城西中
 準優勝 清真学園中
 3 位 東海南中

▼女子団体
 優勝 朝日中
 準優勝 土浦三中
 3 位 東海南中

▼男子個人
 優勝 和田(清真)
 準優勝 大木(城西)

▼女子個人
 優勝 大澤(朝日)
 準優勝 中村(愛宕)
 3 位 酒井(清真) 小野瀬(東海)



平成22年度 中央(臨時)審査会 合格者

取得	氏名	所属	取得日	審査場所		区分計
教士	柴田 隆子	水戸桜川	H22.7.2	【仙台】定期中央審査	宮城	2名
	中嶋 鉄郎	日立化成	H22.12.19	【東京】特別臨時中央審査	東京	
錬士	清水 正己	勝田	H22.5.1	平成22年度推薦	東京	12名
	鬼木 泰江	土浦亀城	H22.6.13	【北信越】錬士臨時中央審査	新潟	
	高羽 京子	水戸	H22.7.4	【東北】錬士臨時中央審査	宮城	
	武田美代子	潮来	H22.7.4			
	野木 雪枝	水戸桜川	H22.7.4			
	園部 俊雄	友部	H22.7.4	【関東】臨時中央審査	茨城	
	中野 治子	下館	H22.9.25			
	石塚 美志	土浦	H22.9.25	【東北】臨時中央審査	青森	
	伊東 喬	日製(日立)	H22.10.16			
	川崎百合子	東海	H22.11.7			
福嶋 勝之	牛久	H22.12.18	【東京】特別臨時中央審査			東京
門井 了	友部	H22.12.18				
七段	国谷保五郎	新治	H22.5.1	平成22年度推薦	東京	3名
	吉田 智	石岡	H22.7.3	【仙台】定期中央審査	宮城	
	川瀬 政人	神栖	H22.11.1	【東京】定期中央審査	東京	
六段	大峰 芳樹	取手	H22.10.30	【東京】定期中央審査	東京	1名
合 計						18名

平成22年度 連合審査会 合格者

取得	氏名	所属	取得日	審査場所		昇段者数
五段	鈴木 亜紀	土浦亀城	H22.5.30	【東京】関東地域連合審査	東京	1名
	上馬 英子	友部	H22.6.6	【群馬】関東地域連合審査	群馬	1名
	高橋 昇	茨城県庁	H22.9.20	【栃木】関東地域連合審査	栃木	4名
	宮内 大和	銚田	H22.9.20			
	永井 朗	土浦	H22.9.20			
	岩下 智明	下館	H22.9.20	【茨城】関東地域連合審査	茨城	3名
	吉田 博美	日立みなみ	H22.10.10			
久保田浩一	土浦	H22.10.10				
	奥山 郁夫	龍ヶ崎	H22.10.10	合 計		9名

震災による県武道館の改修の影響で、大会などの行事に変更が生じています。都度、担当各都府県支部長に連絡すると同時に、茨城県弓道連盟のホームページにも情報を掲載していきますので参照ください。 <http://ibakyuren-k2.webinfoseek.co.jp/>

